

第1回ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル

日時:令和5年7月30日(日)

場所:市花園ラグビー場 2019 ルーム

参加者:市民委員 30 名、構想日本・コーディネーター、市・事務局

コーディネーター : A 班 構想日本 構想日本総括ディレクター 伊藤 伸

B 班 構想日本 特別研究員 定野 司

構想日本 プロジェクトマネージャー 柏崎 亮太

議事要旨:

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 副市長挨拶
4. 自分ごと化会議説明
5. 東大阪市の概況説明

<省略>

6. グループワーク

A 班

<自己紹介、①市の良いところ、②今の市が行っている子育て施策や子どもに関して感じていること>

委員 A-3:

①東大阪市は能動的に住むには住みやすく必要なものは全てある(病院、商業施設、教育機関、保育所、幼稚園から大学)。また、公共交通機関も充実しているので、車がなくてもアクセスが比較的容易。

②他の地域の方からは、少し治安が悪いので積極的に東大阪市内の公立学校に進ませようという気が起こらないと聞く。また、開設に向けて準備しているということだが、児童相談所がないことや昨年には小学校の給食が一時配給できなくなるという事件もあった。そういった良くないイメージがある。

コーディネーター:

給食はどのくらいの期間止まったのか。市域全体か？

事務局:

配送業者の契約不履行によるもので、単独調理校以外の小学校で1か月半くらい止まった。

委員 A-4:

①まちの医者やクリニックが多いので、かかりつけ医はもちろんセカンドオピニオンを聞くなど色々選べる環境がある。

②怪我をして車いす生活となった際、子ども目線だと危ない部分が日常生活にいくつもあった。例えば、歩きたばこや車のライト、自転車の無灯火等、改善していかないといけないと感じた。また、看護師

の数が足りていない。病児保育等の制度が充実しておらず復帰が難しい環境にあるのでこちらも改善できればと思う。

委員 A-5:

- ①モノづくりのまちとして中小企業が盛ん、社会にも貢献している。
- ②親子が一緒に楽しめるような大型ショッピングモールが立て続けになくなってしまった。そういう施設が増えればと思う。

コーディネーター:

大型商業施設は撤退しているのか。

事務局:

イオン、ヨーカドー、イズミヤと撤退している。映画館もなくなった。

委員 A-6:

- ①学校給食が中断した問題について、小学生の子どもがいるので影響があった。弁当を作って持たせないといけなくて対応に苦慮した。今では給食は復活して子どもも楽しんで学校に通っており助かっている。
- ②先ほど話があった大型ショッピングモールがなくなっていることについて、やはり東大阪市内で買い物をしたいという気持ちがあるので、店が減っていっているのは寂しく感じる。

委員 A-7:

- ①交通利便性がいい。1時間以内で新幹線に乗れるし、車の高速道路もある。東西南北どこでも手軽にいけるので、利便性はピカイチと思っている。
- ②全国で子ども食堂があるが、東大阪にもあったらいいと思う。また、歩きたばこが多く、車の窓から火が付いたたばこを道路に捨てている。子どもには大変危険なので、喫煙マナーをもうすこし改善できたらと思っている。

コーディネーター:

子ども食堂は市内にないのか？

事務局:

正確な数は資料がないが市内に十数か所ある。ここ数年はコロナで控えていたというところもあったが、再開してきている。

コーディネーター:

子ども食堂とは主に NPO が運営している無料または安価で食事ができる場。昨今では子ども食堂に行く子どもへの偏見を減らすために、対象者を大きく増やして誰でも入れるようにしているところが増えてきている。

委員 A-8:

②仕事柄あまり子供に携わることがないが、子どもは広い場所があれば走り回っている印象。

委員 A-9:

①今回のラウンドテーブルや、東大阪市の工場紹介やイベント等新しいことに挑戦している印象。

②待機児童ほぼ0で、ICT活用して自宅学習ができる環境も整っている。

委員 A-10:

①中小企業の多さや連携力が強く、新しい技術が生まれたりすることが魅力。

②工業地帯が多いので大型車が多く、流通に対して道が狭いので、子どもにとっては危険ではないかと思う。

コーディネーター:

やはり子どもファーストというのは子どもから見てどうかということ。子どもから見てと言いながら大人の視点になっていたということもよくある。

委員 A-12:

①自然が多い。よく行く公園も自然がいっぱいで小さい子どもがたくさん遊んでいる。そこだけ見たら子育てにはいい環境なのかと思っている。

②子育てはお金がかかるし、復職しようにも子どもを預ける場所がない、充実していない印象がある。もし定年後に子育て環境について役に立てることがあるなら視野にいれていきたい。

委員 A-13:

①子ども食堂があって利用できている。ラグビーのまちという中で、関連したカレーパンやお菓子なども宣伝している。

②コールセンター関連でコロナワクチン事業への6億円の過大請求があったが、もうすこししっかりしてほしい。

コーディネーター:

ワクチンの過大請求については、事業者の問題。あのときは進めることに注力しており、自治体がしっかりしていないわけではないことは分かってほしい。

委員 A-14:

- ①FC大阪や近鉄ライナーズ等のプロチームが小学校に赴きスポーツの楽しさを広める事業がある。
- ②昨日ラグビー場で試合があったことも知らなかった。子育て環境に限らず、市民に情報が届いていないというのが問題。

コーディネーター:

FC 大阪というところでは、最終戦で観客の動員要件をクリアし昇格したのだが、地方創生ということで本当にいいストーリー。

委員 A-15:

- ①食べ物屋が多く、美味しいと感じる。
 - ②夏休みを過ごす場所が少ない。公園は暑く、ゲームセンター等はお金がかかる。家で友達と遊びたいと言われるが、仕事があるため家に居られないのでそれも難しい。
- また、大阪市には塾の補助金があるが、東大阪市にはない。

コーディネーター:

中学生くらいの子もだったら何があったら良いのか。

委員 A-15:

みんな携帯電話やゲーム機をもっているのだから、友達が集まれる涼しい空間があればよい。夏休み中の昼食についても、仕事をしていて弁当を用意する家庭もあるので、一緒に食べられるような場所があれば。

事務局:

塾の補助金に関しては東大阪市の課題。頭にはあるが、そのために中学生の給食代を無償にしている。給食費の分をそういったことに活用してもらえないかと思っていた。

委員 A-15:

中学校給食の無償化は大変有り難いが、意図までは保護者に伝わっていない。

事務局:

小学校給食の無償化も市長の頭にはあるが、費用面の問題があるので今後の課題として考えている。

委員 A-16:

- ①交通の便がいいことが一番魅力的であると思う。
- ②東大阪に住み続けたいと思ってもらうには、生まれてすぐの政策や施策だけではなく、特に学生の期間が長いと思うので、学生期間のサポートがあれば良いと思う。

室内で遊べるスペースや、勉強できるスペースが少ないと思うので、気軽にいけるようなスペースがあればと思う。学校開放とかもしてくれているが、学校が休みのときに学校に行きたいとはあまり思わないような気がする。

委員 A-17:

- ①京都や関西空港にバスがでていたりするハブとしての魅力。今後国際化社会になっていく中で色々なポテンシャルをもっているまちだと思う。
- ②外国人が今後増えていく。ベトナムや東南アジア、ネパールなどから働きにきている方がいる。そういった方々も安心して暮らせるようなまち、その方々が安心して子育てできるような環境が必要と思う。

委員 A-19:

- ①土地が大阪府の中でも広い。神社があって、自然があって、大阪市に近づけば都市のようになっていて、色々な表情があって面白く思っている。
- ②石切駅の周辺など、夏場でも道がとても暗くて大人でも危険を感じる。また、子どもが遊べる施設等は必要かと思う。

コーディネーター:

自己紹介いただいて、他市に比べてずっと市内に住んでいる方が多いということに驚いた。これには委員の方も言及いただいた交通の便の良さがつながっているのかと思う。引っ越さなくても通えるということは大きな利点と思った。事務局説明では小学校に就学する際に人口が減っているとあったが、これは恐らく小学校に通うようになる前までは賃貸で家を借りていて、入学のタイミングで市外に行っている人が多いのかと推測していたが、実感としてはどうか。

委員:

身内の話ではあるが、大体保育園から小学校にそのまま上がっていくという話を聞いた。そのタイミングで減るといったイメージはあまりない。

事務局:

小学校から中学校で持ち家になるタイミングで転居されている印象。一軒家に住みたいとなった時に東大阪市では大体家が建ってしまっていて建てる場所が少ない。分譲マンションも今までは小さめのものが多かった。最近になってファミリータイプの分譲も増えたことで、東大阪市内での転居という流れができつつあるという話は傾向として聞く。

コーディネーター:

必ずしも引っ越したいわけじゃないが、物件がないから選んでいるうちに東大阪市内外にでしてしまうということもありえる話。本日話を聞いた感覚で言うと、委員の皆様には東大阪市は総合的には住みやすい

まちであると思っていただいている。これはとても良いことで、人が抜けないように、あるいは子どもが進学等で行って行って戻って来て東大阪市に住みながら通勤する、ということになってくるとよいと感じた。子どもの居場所問題が話題としてよくあがっていたので、次回のテーマとしては小学生から中学生にかけての居場所についてということにさせていただきたい。もちろんそのテーマだけでなく感じたことを話してほしい。次回に向けて、自分が子どもの頃のことや、今子どもがいる方は子どものこと、周りの小中学生のこと、学校以外の場所で平日休日関係なく、居場所となっている場所について話を聞いていただけると次につながってくると思う。

B 班

<自己紹介・話を聞いてみて、あるいは普段生活するなかで子ども・子育てについて興味があること、疑問、意外だったこと等>

委員 B-1:

子どもファーストについてはよく分からないが、この会議を通して今後活かされればと思って参加した。子どもファースト自体はいいことだとは思う。

委員 B-2:

昨日ちょうど盆踊りがあって、東大阪市は昔ながらの祭りも残っており良い。小中学生の子どもがいるが、生徒への対応や虐待(に繋がる事態含む)等先生の負担が多いと感じる。

コーディネーター:

東大阪市では児相がこれからできる。怖いところではなく、虐待の早期発見ができる施設。

委員 B-6:

朝ドラでもテーマになったモノづくりなどいいところがあり、東大阪市が好きで住んでいる。自分には子どもがいらないが友人に子どもが生まれはじめた。子どもがたくさん生まれる、子育てしやすいまちななれば。子どものレベルや個性に合わせた幅広い教育の提供が必要と感じる一方、先生の負担が大きいと感じる。

コーディネーター:

私学では「子どもに学校を合わせる」発想。さまざまな教育の機会が増えれば、子どもをつくってもいいと思う大人も増えるのではないかと思う。

委員 B-7:

子どもが生まれて初めて、子どもをどこで遊ばせたらいいの？という疑問が生じた。公園が少ない、散歩のときに道が狭く危険で子どもを歩かせられない。子どもがのびのびできる場所が少ない。また、子どもがすくすく育つ環境のために親の健康にも焦点を当ててほしい。役割から解放される時間が必要。

コーディネーター:

足立区では子育てサロン(保護者どうしの交流の場)を作った。そういうところには行ったことがある？

委員 B-7:

はぐく一むは先日行った。保護者間の交流はそこまでできなかったが。施設としては綺麗なのに、まず利用者が少なく、あることを知らない人が多いのでは。周知の必要がある。

委員 B-8:

生まれてからずっと在住。子どもファースト、いいこととは思う。明石などモデルにしては？ただ、子どもの置かれている環境は家族構成、経済状況等千差万別。「子ども」とひとくくりにすることに違和感がある。簡単なものではないと思う。野田市長、市議会議員と FB 上で意見交換してきたが、「子どもファースト」は安直なのでは。違う背景を持つ子どもひとりひとりに寄り添っていく必要あり。今後の政策の動向を見たいという動機もあり参加した。

委員 B-10:

たった 4 回の会議で多種多様な子どもにどこまで何ができるのかと思ったが、今まで行政と関わりがなかったところ機会をもらったので、色んな人の話を聞きたい。3 人子どもがいて 2 人成人、一番下が中学生で、20 年ほど子育てをしてきた。

先日、近所の子から相談を受けにスクールカウンセラーを利用するよう勧めたら、親の許可がないと利用できないと先生に言われた。その子の抱える悩みは親(家庭環境)が問題なのにと疑問に思った。

コーディネーター:

緊急のときは 189 の活用も検討してほしい。まさにこういう生の声が市政の改善に繋がっていけば。

(事務局注:後日原局に確認し、実際には親の許可は不要である旨聴取。原局を通し現場に指導済み)

委員 B-11:

小・中学校の英語教師を 10 年ほどやっているが、外国人からすると日本語での意思疎通は難しい。外国人が増えると外国人の子どもも増えるし、いじめられる子もいる。外国人と日本人の繋がりを作る場がもっと上手く用意できないか。たつの市、姫路市では交流会をやっていた。東大阪市でもあるかもしれないが知らない・知られていない。また、SNS や ICT 技術をもっと活用した方がよい。先生が使いこなすのは大変かもしれないが、子どものチャンスになること。

コーディネーター:

日本語での会話や授業が難しい子たちへの対策が必要。

委員 B-13:

夫が東大阪市出身で、勧められて今回の会議に参加。今年の4月から子どもが小学校に入学。iPadをずっと触っている。先日、局部の写真を撮ってしまったので写真の消し方を教えてほしいと言われるという、性の目覚め？ 旺盛な好奇心？を感じる出来事があり、対応に戸惑った経験がある。

コーディネーター:

デジタル技術が進み、親世代が未経験の課題と向き合っていないといけない場面が出てきた。

委員 B-14:

市政に興味がなかったので、一度経験してみたいと思い応募した。子どもは成人済み。自分が子育てしていた時代の東大阪は、お祭りや子供会が盛んで恵まれていた。道の狭さや危なさはあるものの、比較的問題・課題の少ないまちと思う。喫緊の課題は感じていない。お祭り等の行事は減っている印象。

コーディネーター:

地域の活動で色々な大人と触れ合うことは子どもにとって大事。

委員 B-15:

知り合い・親戚が近くにいないが、子育てであまり不自由はなく、支援は手厚いと思っていた。でも、小学生に上がると公共の遊び場がないことに気付いた。子育て支援、2歳くらいまではすごく充実しているが、8歳くらいになってくると支援や交流、遊びの場がサイズアウトしてきて行くところがない。また、学年(チーム)担任制やってほしいと考えている。1人の先生が1学級の規模見るのは相性もあり難しい。先生・生徒とも気持ちの分散ができる仕組みだとよい。

委員 B-16:

大学で地域福祉や児童虐待といったテーマを学んでおり、興味があり今回参加した。就職で東大阪を離れることになりそうなので、何か貢献したい思いも。自分はマンション内や公園で遊んできたが、最近見なくなった。騒音問題の影響か。また、子育てという言葉に対して、若い世代にはネガティブなイメージ、漠然とした不安がある。高校時代に友人が自殺した経験から、東大阪市は子どもが生きにくいまちなのではという印象がある。

コーディネーター:

誰でも相談しやすい仕組みづくりが必要。

委員 B-17:

まだ東大阪市の取組みが分からない。これから出産、子育てを考えていくうえで知っていきたいと思い参加した。福祉の仕事をしており、虐待等複雑・困難ケースとやりとりすることがある。子ども支援センターには人が来ているが、それは健全な家庭の人が多く、キャッチアップしないといけない世帯の人ほど来ない。そういう人たちの居場所がないし、あっても周知されていない。どこに焦点を当てて「子どもファースト」を考えていくのかということが気になりつつ楽しみでもある。

委員 B-19:

住んでいて多少愛着も湧いてきたが、市の現状や取組みは知らないなかで募集が来たので参加してみたいと思い来た。自分には子どもがいないし自分とはかけ離れたテーマと思ったが、自分にも何かできることがあれば。

コーディネーター:

子どもがいる／いないは子どもファーストには関係ない。例えば、公園や広場、保育所の建設・廃止などは住民全員に関係してくること。

コーディネーター:

色々なテーマが出た。全て同じ熱量とはいかないが、テーマを絞って今後議論をしていく。そのなかで複数の方から聞かれたのは

- ・遊び場・居場所
- ・多様な子ども・家庭への対応
- ・先生・親等周りの大人へのサポート

あたり。次回、具体的なテーマ決めを行っていきたい。

7. 本日の会議のまとめ

A 班

・「東大阪市のいいところ」では交通の便を挙げている人が多かった。

小学校入学時に転出するという数字の動きと参加者の感覚には少しギャップがある印象。参加者は東大阪市のことを好いている。魅力の部分発信していかないといけない。

・小学校高学年・中学生以降の年齢の子どもは休日の居場所がない。

・子ども目線の必要性(実際に子どもが感じている課題を見ること)

あと 3 回は「子どもの満足度がどうやったら 100%になるのか」という視点で。

B 班

・多様な家庭・子どもへの対応が必要

- ・就学後の子どもたちの居場所がない
- ・子どもを支える保護者や親のサポートが必要

8. 事務連絡・閉会

<省略>